

巻頭言

北海道算数数学教育会
高等学校部会長 辻 伸也
(北海道札幌西陵高等学校長)

第44回北海道高等学校数学コンテストは、道内15校112名の参加を得て、令和8年(2026年)1月10日(土)を標準実施日とし、全道各地の高校を会場にして実施されました。問題の作成から採点に至るまで携わっていただきました先生方、実施にあたりご協力いただいた各会場校の先生方をはじめ多くの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

また、当日参加された生徒の皆さんにも、労をねぎらいたいと思います。

さて、本数学コンテストは、実施要項にもあるとおり、数学に対する興味・関心を喚起し、想像力・直感力・思考力を高めることを目的としています。高校1年終了程度の学力で解答可能なものとなっていますが、5つの問題は、これまでの既習知識を総動員するとともに、視点を変え、直感力を駆使し、筋道立てる工夫が必要な難しい問題が多かったと思います。そこには出題者が込めた数学に対する熱い情熱と生徒の皆さんに向けた数学の面白さを感じてほしいというメッセージが込められています。問題を解くことで、皆さんの数学に対する興味・関心が一層深まってくれることを期待します。

現在、次期学習指導要領改訂に向けた議論が進んでおり、昨年9月に文部科学省教育課程企画特別部会から論点整理が公表されました。算数・数学ワーキンググループの会議の中で、学習院大学の篠ヶ谷圭太教授は、理解にも思考にも知識は重要とした上で、思考に使える確かな知識(深い理解)を身に付けていくこと、教訓帰納として、答え合わせ後に振り返り、なぜ間違えたかどう考えればよかったかを意識することが大事だと述べています。皆さんには、返却された答案と、「採点を終えて」に記載されている解答例を見比べ、また、複数生徒が受験した学校にいる生徒の皆さんは、互いの解答から、解法の吟味、考えることの奥深さを見つけてほしいと思います。

結びに、本数学コンテストの実施にあたり、ご後援を賜りました北海道教育委員会、札幌市教育委員会、北海道新聞社、北海道高等学校長協会の皆様、ならびにご協賛いただきました東京書籍株式会社、株式会社新興出版社啓林館、数研出版株式会社、現役予備校TANJIの皆様に、深く感謝申し上げます。あわせて、クラウドファンディングを通じてご支援くださった皆様にも、改めて御礼申し上げます。